

試聴会・訪問記掲載

河口無線ハイファイディリティ試聴会報告(2015.9.12)

河口無線で開催されたアキュフェーズの「[C-3850](#)」と「[M-6200](#)」の試聴会にアキュフェーズの最新の進歩が聴けるとあって参加してきました。

<使用機材>

スピーカー以外は、次のようなオールアキュフェーズの入力系と駆動系のシステムです。



アキュフェーズ プリアンプ C-3850 ¥1,944,000



アキュフェーズ モノラルパワーアンプ M-6200 ¥1,944,000 (ペア)



アキュフェーズ SACD プレーヤー DP-720 ¥1,188,000



アバロン スピーカーシステム DIAMOND ¥6,264,000 (ペア)

<試聴経過>



当日のセッティング



入力系と駆動系

開始前からイージーリスニング的なジャズが流れていましたが、クリーンで透明度の高い音がやさしく鳴っていました。

C-3850 と M-6200 の開発経過について、ベースになった前作からどのように改良されたかという技術的な背景をパネルとパーツを示しながらの説明を織り込みつつ、試聴が行われていきました。

最初にモーツアルトの 40 番、ついで女性ボーカル、ヒラリー・ハーンのヴァイオリンソロ、ピアノ独奏、ジャズのピアノトリオ、アルペジオソナタ、アイダの合唱、ブルーノートのジャズ、モーツアルトの歌曲のソプラノ、ジャズのピアノトリオ、フルート、ジャズのビッグバンドと続き、最後はエルガーの威風堂々で締めくくられました。

技術的な解説では、技術者のこだわりが強く反映されていることが分かりました。それが音にどのように反映されているかが問題です。

総じて全体的に抑制が効いて、クリーンで透明度が高く、大編成ものでも分離が良いと聴き取れ、女声ボーカルなどでは声の質感が好ましく、こういった音を好むファンが多いことも首肯できました。それだけにジャズでは粘っこさや押し出しにかけるところがあり、ジャズファンがどう受け取ったか気になるところです。

当方のジャンルであるクラシックに関しては、弦や木管はさらりとしすぎて、もう少し艶が乗ってほしいところです。ヒラリー・ハーンのヴァイオリンは何度も生の音を聴いていますが、生に比べて少しよそ行きの音のように聴こえました。オーケストラやオペラやピアノの低い方ではもっと迫力があってほしいところでした。

如何にも日本的と言うか、行儀が良く良識的なオーディオの音と言う印象です。以上は、アバロンの DIAMOND の個性と相乗的に働いた結果かもしれませんので、別のスピーカーで聴いてみたいところです。

以上

